



記念植樹（南部総合公園）



交流のきっかけとなったあづみ野ガラス工房への訪問



中学校への訪問

Kramsach

クラムザッハ

訪問団が安曇野市へ

姉妹都市オーストリア・クラムザッハ町の皆さん（ステファン・シュウラー団長ほか23人）が5月23日から5日間、安曇野市を訪れました。滞在期間中、記念植樹や、中学校の英会話授業への訪問、市民の皆さんとの交流が行われました。



高校生とのバーベキュー交流会



前友好会長同士の再会の誓い



安曇野の里(重柳区)でイベント参加者と交流



長年の交流に対し、チロル州知事からの感謝状がカリン・フリードリッヒ副町長から宮澤市長へ贈られました。

ホームステイに
行って思った
こと

さかもと まさや
坂本雅哉くん
明科中



僕はこのホームステイで、大変貴重な体験をすることができました。

最初は、楽しみと不安でいっぱいでしたがホストファミリーがやさしく迎えてくれて、とても楽しい時間を過ごすことができました。

日本では味わうことのできない驚きや感動があり、全く知らない世界を知ることができました。心から楽しい10日間で新鮮な気持ちになりました。

日本に帰ってきて、もっと英語を身につけて、世界中の国へ行きたいと思いました。

(豪)
オーストラリア
～学び多き海外研修～

すぎもと ひかる
杉本 光くん
堀金中



僕がオーストラリアで学んだことは次の二つです。

一つは文化や習慣の違い。中でも小中学校の授業の違いに驚きました。小学校では意見交換や話し合いが授業の中心。中学校では一人一台タブレット端末を持ち、宿題もそれで提出していました。

もう一つは実践的な英会話。学校だけでは学べないコミュニケーション第一の英語を学ぶことができました。

これらの貴重な経験を生かして、世界で活躍するような人になりたいです。

通い合うこと

おざわ まき
小澤真樹さん
堀金中



私にとって、初めての海外ホームステイで、今まで学習してきた英語は本当に通じるのかという不安がありました。しかし、この不安は解消され、自信へとつながりました。

ある伝えたいことを英語でどう言えばいいかわからなかったことがありましたが、身ぶり手ぶりでがんばって説明して、分かってもらえたとき、通じ合うことの喜びを実感しました。つまり、きちんと伝えれば、必ずわかってくれるのです。相手も目を見て理解しようとしてくれるので、伝わったときの達成感をお互いに分かち合うことができました。

このような機会を与えてくださった皆さん、そしていつも支えてくれる父と母にとっても感謝しています。

今回のホームステイで学んだ「通じ合うこと」の喜びと英語力を生かして、日本にとどまらず世界規模で、通じあうことができる人材になりたいです。



メルボルンの夕暮れ



発表する生徒の皆さん

帰国報告会を開催
中学生海外ホームステイ交流派遣事業帰国報告会が5月31日、市役所で行われました。当日は生徒の家族や市民など約100人が参加。生徒たちは、現地での生活や文化などを紹介したほか、時折、英語を交えながら、英語や異文化に対する自分の気持ちの変化などを話しました。赤羽絢夏さんの父親の俊幸さんは「派遣中も現地の生活を楽しんでいたことを伝えるメールを送ってくれました。帰国してからは、洋楽にも興味を持つようになりました」と話してくれました。

市長コラム

市長 宮澤宗弘

今回のホームステイ派遣事業で異文化に接し、さまざまな人と交流したことは、生徒の皆さんの人生経験の中で、貴重な体験になったと思います。この派遣をきっかけに、安曇野の次代を担う子どもたちが視野を広げ世界で活躍できる人材になることを期待します。

5月には姉妹都市クラムザッハの青少年の皆さんが安曇野を訪れ、市内の各家庭でホームステイし、日本の文化や安曇野の自然などに触れていただきました。若い皆さんとの交流を通じ、友好の絆がより一層深まることを願っています。

また、6月7日の第1回信州安曇野ハーフマラソンでは、おもてなしを通じ、市民とランナーの皆さんとの交流の輪が広がったと感じています。協賛いただいた企業や団体、応援やボランティアに参加いただいた大勢の皆さまから大会を支えていただきましたことに、心より感謝を申し上げます。

今後もさまざまな交流を通じ、人材の育成、安曇野の魅力を発信し、市民の皆さんにもふるさと安曇野に良さを再発見していただくような事業を推進していきます。